

飛鳥・藤原京展

奈文研 50 周年を記念して開催している「飛鳥・藤原京展」も、先日東北歴史博物館での会期を終え、現在は最後の会場となる三重県の四日市市立博物館での展示が始まっています(2003年3月9日まで)。

東北歴史博物館では、1万3千人を超える観客が訪れました。飛鳥・藤原地域から遠く離れた東北でも、関心の高さを知ることができました。斉明天皇は、服属を確認させるために、盛んに蝦夷の賓客を招いて饗宴をしていました。その饗宴の場からは、石人像や彼らが持ち込んだ土器が見つかっており、東北での展示の目玉として話題を集めました。

現在開催中の四日市市立博物館では、「飛鳥・藤原京展」の関連行事として、館独自で制作した「キトラ古墳と冬の星座」というプラネタリウム番組を投影しています。星空を見上げながら飛鳥・藤原時代に想いを馳せる…。一人でも多くの方にこのロマンを感じていただきたいと思っています。

(飛鳥藤原宮跡発掘調査部 前岡孝彰)